

教育実習における合理的配慮に関する対応マニュアル ～病弱・虚弱～

ここでは、教育実習に関する対応のうち、病弱・虚弱の学生に特化した合理的配慮や留意したい事項の詳細をまとめています。障がいのある学生全般に共通する対応マニュアルと合わせて参照してください。

障がいの概要と困難さの例

(1) 概要

「病弱・虚弱」とは、慢性的な呼吸器疾患、心臓疾患、腎臓疾患、神経疾患や悪性新生物、アレルギー疾患、その他政令で定める疾患及び身体虚弱の状態が長期間にわたる、または長期間にわたる見込みのもので、医療や生活規制が必要となるものです。

(2) 困難さの例

個別性が高いため一概には言えませんが、抵抗力の低下などにより、風邪等の感染症にかかりやすい場合があります。また、身体への負担の軽減や病状の安定のためには、学校生活や社会生活をおくる上で、活動が制限される場合もあります。本人が申告しない限り、健康な学生と区別がつかないことも多く、長期欠席等により周囲が気づき把握されることもあります。“困難さがわかりにくいこと”が困難さの一つであるといえるでしょう。

◆ 1. 大学での教育実習前の面談の在り方

(1) 申し込み時の書類で配慮事項を把握するためのポイント

自己申告や配慮申請への遠慮や認識のなさに対して、病気への不安や困りごとに関して支援が受けられることを事前に明示し周知する必要があります。病弱・虚弱の学生への支援・配慮は個別性が高いため、自己申告や配慮申請があった場合は、個別に面談を行って確認が必要です。

また、ニーズの個別性の高さはあるものの、障がい学生支援の専門部署とのつながりを持っていない潜在的な学生の存在も考えられます。実習校に支援・配慮の依頼をするしないにかかわらず、多様な部署での検討を行うためにも、障がい学生支援の部署の紹介を検討してください。

(2) 時期

特に、障がい学生支援の専門部署とつながりがない場合は、教育実習の申し込み時の書類での記載が確認され次第、面談等での状況確認を開始するようにします。

(3) 面談で明らかにしておくポイント

医療機関での診断名、治療管理（服薬・運動規制・食事規制等）の状況、感染症への配慮、実習にあたっての主治医の所見の聞き取りをおこないます。

◆ 2. 教育実習先の選定段階での留意事項

毎日の登下校が過度の負担とならないよう、移動手段や移動距離を考慮しておくことが望ましいと言えます。

◆ 3. 教育実習受け入れ校への情報提供や調整の在り方

(1) 伝達する情報のポイントと調整事項

体調管理や、不調が予想される場合の予防的対応として、教室の後ろに椅子を準備しておき、授業見学时に必要な応じて座らせてもらえるようにすることや、保健室や別室での休息の取り方等の調整も考えられます。

また、病状によっては、給食で食べられない食材がある場合の対応、薬の服用のための時間の確保等も調整しておくといでしょう。

◆ 4. 教育実習受け入れ校と大学の連絡体制の在り方

発作等の体調急変時の連絡先や、大学が把握している手順などを実習校と共有しておきます。また、病気を理由とする欠席や遅刻の取り扱いなどは、教育実習に関わる事務職員の対応が想定されるため、大学と実習校の対応窓口となる担当者を明確に取り決めておくことも必要です。

アナフィラキシー等急激に症状が悪化する疾患に対しては、実習校に対応の手びき等を提供するのが望ましいでしょう。

教科指導等の授業場面で、病状によっては、活動量・活動制限・休憩の取り方や教材のアレルゲンの除去等について検討する必要があります。

薬物療法の副作用等によって、免疫が低下し、感染症に罹りやすかったり、症状が重篤化しやすくなっている場合もあります。実習生に対して、実習中のクラスのみならず、実習校全体の流行状況も情報を提供し、本人が主治医等と相談したうえで、当該実習生の実習が一時中断されることも考えられますので、その対応についても事前に対応担当者を決めておきましょう。

◆ 5. 教育実習後の成果や課題の振り返りの機会の在り方

(1) 学生の望ましい気付き

卒業・修了後に体調を維持しながら教師として働いていくためには、実習中から心身への過度な負担や病状悪化のリスクを少なくする生活を意識したり、日々の変化する体調に即した必要な配慮について申し出られるようになっておくことが望ましいので、このような視点からの振り返りも行います。

◆ 6. 教育実習における合理的配慮に関する対応チェックリスト ～病弱・虚弱～

病弱・虚弱の学生の教育実習に関する対応をチェックリストにまとめました。障がいのある学生全般に共通する教育実習に関する対応チェックリストと合わせて、各段階での対応の参考に活用してください。

教育実習における合理的配慮に関する対応チェックリスト ～病弱・虚弱～			メモ欄
学内での準備	書類	自己申告や配慮申請への遠慮や認識のなさに対して支援が受けられることを明示し周知	済・未
	面談	医療機関での診断名・主治医の所見	
		治療管理（服薬・運動規制・食事規制等）の状況	
		感染症への配慮	
		診断名、障がいの状態を実習校の誰に伝達をするのか	
		伝達内容に関する同意	
	選定	毎日の移動が過度な負担とならない、移動距離、移動手段の考慮	
実習校とともに 行う準備	体調管理のための予防的対応		
	保健室等の別室での休息の取り方		
	給食の対応（食事規制のある場合）		
	服薬の時間の対応		
	授業場面での活動量・活動制限・休憩の取り方		
	授業場面での教材のアレルゲン除去等		
	連絡・連携	発作等の体調急変時の連絡先、手順の共有	
		アナフィラキシー等の対応手引きの提供	
		病気を理由とする欠席や遅刻の取り扱い	
		感染症流行時の対応	
実習後 振り返り	学生	体調を維持しながら勤務するための生活を維持することへの気づき	
		体調の変化に即した配慮の申し出ができるようになることの気づき	